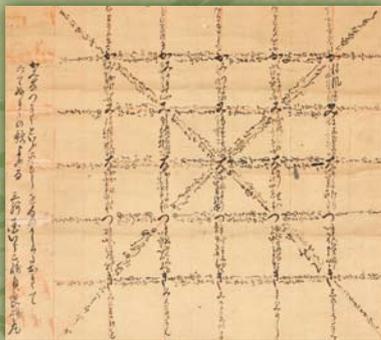




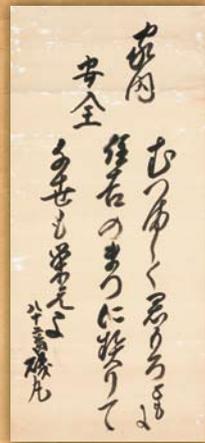
「糟谷磯丸陶像」/尾張焼物師常滑小三郎造
弘化2(1845)年/個人蔵



「八重だすき歌」/糟谷磯丸筆/個人蔵



「富士」/糟谷磯丸筆/個人蔵



「家内安全歌」/糟谷磯丸筆
弘化2(1845)年/渥美郷土資料館蔵

田原市博物館・渥美郷土資料館 | 平成23年・春の企画展

漁夫歌人 ISOMARU KASUYA 糟谷磯丸展

2011年 5月21日(土) ▶ 7月10日(日)

※5月21日(土)の一般公開は開会式終了後の午前10時からとなります。

会場 田原市博物館、渥美郷土資料館

開館時間 午前9時—午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日

観覧料 一般400円(320円)、小・中学生は無料

※()内は20名以上の団体割引料金 ※渥美郷土資料館は無料

展示内容 和歌作品(軸物、短冊、一枚物、詠草など)、愛用品、顕彰品(陶像、茶碗など)、関係古文書、歌碑写真・拓本など 約250点

※田原市博物館では和歌作品を中心に磯丸の全体像を、渥美郷土資料館では市内をはじめ各地に存在する磯丸歌碑を中心に展示紹介。

糟谷磯丸は、渥美半島の先端伊良湖村に明和元(1764)年5月3日に生まれ、嘉永元(1848)年5月3日に85歳の生涯を終えた漁夫歌人です。

磯丸は、31歳の時に父を亡くし、母は長年病床にありました。その母の回復を願い近くの伊良湖明神(伊良湖神社)へ日参するうち、参詣人たちが奉納額を見上げて和歌を口ずさむのを聞き、その響きに心を魅かれ歌を詠むようになりました。やがて隣村(亀山)に住む大垣新田藩の郡奉行井本常蔭に見出され、その後、吉田(豊橋)の鍼医で女流歌人の林織江が伊良湖へ紀行の際に世話をしたのが縁となり、織江の師であった京都の堂上歌人芝山大納言持豊の門人になりました。

磯丸は、生涯に数万首の歌を作ったといわれています。中でも「まじない歌」は、当時の人々の暮らし向きや磯丸像がよく表されているものです。

多くの歌人や俳人が旅人であったように磯丸もまた旅人でした。三河各地をはじめ、三遠南信地域とのゆかりも深く、遠くは京都、伊勢、尾張、江戸などにもその足跡を残しています。

老若男女、階級、遠近、貧富を越えて、多くの人々に愛された磯丸は、その死後、神として祀ることを許され「磯丸霊神」の号が与えられています。

今回の企画展では、郷土に生まれ多くの人々に親しまれた漁夫歌人糟谷磯丸の関係資料を展示紹介して、その人となりや歌の世界を堪能していただくよう開催します。

このたびの東日本大震災で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。
一日も早い復興を願い、かつて糟谷磯丸が人々の希望を心を込めて詠んだ歌をおくります。
「家内安全 むつまじく 君もろともに 住吉の 松に契りて 千世も栄えよ」

主催 | 田原市博物館 後援 | 糟谷磯丸顕彰会、愛知県教育委員会

田原市博物館 渥美郷土資料館 ※展覧会図録、ハガキ(肖像、作品)を販売
☎22局1720 ☎33局1127
http://www.taharamuseum.gr.jp



「糟谷磯丸肖像」(部分)/君升田村彦画/天保8(1837)年/個人蔵

関連行事

● 講演会

6月11日(土) 午後1時30分～ 入場無料

会場 | 崑山会館(田原市博物館隣接)

演題 | 「伊良湖の歌ひじり 糟谷磯丸」

講師 | 安江茂氏(現代歌人協会会員、中部日本歌人会顧問)

● 展示解説

5月28日(土)、6月25日(土) 午前11時～

会場 | 田原市博物館 学芸員による展示説明

※展示解説希望の方は観覧料が必要となります。

同時開催

「渡辺崋山と椿椿山の花鳥画」
特別展示室